

# 外国人児童生徒等における教科用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議 報告書(概要)

外国人児童生徒等(日本語に通じない児童生徒)が、教科書の使用に当たって抱えている困難を軽減するため、音声教材等の ICT 教材を活用することが有効であるか、また、ICT 教材を活用する場合に具体的にどのような対応や配慮等が必要になるか、検討を実施した。

## 1. 外国人児童生徒等を取り巻く環境

○日本語指導が必要な児童生徒(日本語で日常会話が十分にできない児童生徒、又は日常会話はできても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている児童生徒)の数は増加・多様化している。また、当該児童生徒を受け入れる学校の環境も様々である。

## 2. 外国人児童生徒等が教科書使用に当たり抱える困難

○外国人児童生徒等については、日本語に通じないことにより、教科書使用上の困難を抱えていることがあり、その困難の程度は軽度なものばかりとはいえ、支援の重要性は高い。  
○また、外国人児童生徒等の持つ背景や置かれている状況は一人一人違うものであり、学習上の困難を感じる内容や、効果的な支援の方法も、それぞれ異なる。

## 3. ICT 教材による外国人児童生徒等の教科書使用上の困難の軽減

○ICT を活用した教材である音声教材や学習者用デジタル教科書は、いずれも使用者が随意的タイミングで教科書の音声情報を入手できる機能等を持つことから、外国人児童生徒等への指導・支援に活用することで、学びの質の向上につなげることができると考えられる。

- ・ 音声教材: 障害により、通常の教科書を使用することが困難な児童生徒を対象として、教科書の内容を音声化した教材。
- ・ 学習者用デジタル教科書: 平成 31 年度(令和元年度)より、紙の教科書に代えて使用できるよう制度化された、紙の教科書と同一の内容をそのままデジタル化した教材。

○具体的には、外国人児童生徒等が任意のタイミングで音声情報を得られるようになることで、

- ・ 来日直後児童生徒の発音やイントネーションといった日本語の基礎的内容の学習から、学年相当の教科書の学習に日本語で参加するために必要な文章の理解等に係る内容の学習まで、幅広い段階で言語学習を支援できる、
- ・ 教師のサポートなしでも自学自習できるようになることで、児童生徒が学べる場面を広げ、また、学ぶ意欲を高めることにも資すると考えられる、
- ・ 外国人児童生徒等が基礎的な内容を自学自習できれば、教師がより効果的に授業時間を活用できるようになり、指導を充実させられるとともに、教師の負担軽減にも資する、

等の効果が期待される。

○他にも漢字にルビを振る機能、読み上げている箇所をハイライト表示する機能、分かち書き機

能等、これまで学校現場で個別に行われてきた支援を容易に行えるようになる機能を備えたものもあり、児童生徒の状況に応じて、それらを活用して指導することも有効と考えられる。

#### 4. ICT教材の利用に係る今後の方向性と課題、留意点

○外国人児童生徒等の支援のための音声教材や学習者用デジタル教科書の活用は、効果的であると期待され、推進していくべきものと考えられるが、その実現に向け、国が行うべき主な取組は以下のとおり。

##### 【音声教材について】

- ・ 現行制度上、著作権法第33条の3規定に基づき、障害のある児童生徒向けに作成されている音声教材は、外国人児童生徒等に提供することができない。このため、関係団体の理解を得た上で、制度を見直すこと。その際、インターネットを利用した提供も可能とすべき。また、著作権者の利益が不当に害されることのないよう留意する必要がある、特にインターネットを利用した送信を行う場合、対象となる児童生徒等以外にデータが流出することを防止するための対策を取ることが重要。
- ・ 製作団体の負担に配慮しつつ、より多くの児童生徒が利用できるような運用を検討すること。

##### 【学習者用デジタル教科書について】

- ・ 学習者用デジタル教科書について、現場で円滑に活用するための機能の統一的な基準の設定の促進や、外国人児童生徒等にとって一層使いやすく、学びを充実させられる機能や形式の導入を可能とすることや費用負担の在り方等、今後行われる在り方の検討において、外国人児童生徒等の困難を軽減する観点を含めて検討を行うこと。

##### 【ICT教材の効果的な活用について】

- ・ 外国人児童生徒等が特別な教材を活用する場合にも、周囲の生徒や保護者の理解を得られるよう配慮するとともに、閣議決定等を踏まえ、児童生徒一人一人の状況を考慮しつつ、ハード整備を着実に進めること。
- ・ ICT教材について、教師や保護者が、その存在をきちんと認識できるよう、基礎的なことからしっかりと周知し、さらにその活用による効果を把握できるよう情報提供すること。
- ・ 授業でICT教材をしっかりと生かせるよう、教師の指導力の向上を図る環境を整備し、また、外国人児童生徒等への支援としてのICT教材の活用に当たり、その特性を生かすための留意点を意識させること。
- ・ ICT教材の家庭での使用について検討すること。
- ・ 音声教材、デジタル教科書等の位置付けを整理し、各外国人児童生徒等が求める特性に応じた教材を円滑に選択し、活用できるようにするとともに、教材の質の向上・作成作業の効率化のため、音声教材製作団体と教科書発行者の連携を促すこと。

##### 【外国人児童生徒の抱える困難の軽減について】

- ・ 今後も、外国人児童生徒等の学習を充実させていくため、ICT教材の作成プロセスや、外国人児童生徒等が使いやすい教材等の普及・活用の促進等について、今後も検討を続けていくこと。